

副産物情勢

平成28年12月2日 JA全農ミートフーズ株式会社

内 容		備 考
1.内臓	①国産牛	<p>○平成28年10月成牛と畜頭数は、88.0千頭(前年比92.8%)となり、19ヶ月連続で前年割れとなった。内訳を見ると、和牛が36.1千頭(前年比88.2%)、交雑牛19.3千頭(同102.7%)、乳牛去勢16.3千頭(同94.1%)であった。特に和牛、乳牛についての出荷頭数減少傾向が継続していることが伺える。</p> <p>○平成28年11月の成牛と畜頭数は、速報値(11/30まで集計)で98.9千頭(前年比93.4%)と減少している。(独)農畜産業振興機構が11月24日に公表した牛肉の需給予測によると、出荷頭数は、交雑種は酪農家における乳用牛への黒毛交配率の上昇により増加が見込まれるものの、和牛および乳用種は減少が継続すると見込まれる。全体では、11月はと畜場稼働日数が前年を上回るものの、1日当たり出荷頭数が前年を下回ると見込まれることから、前月を僅かに下回る予測され、12月は、と畜場稼働日数は前年を上回るものの、と場稼働日数が前年を下回ることから、前年を下回ると予測している。</p> <p>○需要動向については、全体的によく動いている。赤モノは依然不足気味である。レバーの動きも継続している。小腸、アキレス、テールも時期的に動きが出てきているが、野菜高値のためか、小腸・盲腸等この時期にしては昨年と比べ動きが鈍い状況である。今後、と畜発生数の増加が全品種ともに見込めないことから今後も全体的な需要は継続すると思われる。</p>
	②国産豚	<p>○平成28年10月度全国の肉豚出荷頭数は1,372千頭(農林水産統計11/30公表 前年比95.1%)となった。農水省9月21日発表の10月出荷予測では、1,448千頭(前年比100%)の前年並みと予測されていたものの、76千頭下回る結果となった。</p> <p>○平成28年11月の全国と畜頭数は、速報値で1,418千頭(11/30まで集計)、前年同比100.6%となっている。稼働日数では昨年より1日多い20日間となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で前年同月70,000頭に対し、本年が70,900頭となっている。</p> <p>○農水省によると、今後の出荷予測頭数は11月1,489千頭(同106%)12月1,511千頭(同102%)平成29年1月1,430千頭(同106.0%)となっている。</p> <p>○需要動向についてはアカモノは全体的に堅調である。レバーは外食向け味付け焼材が好調であるためか動きが継続している。シロモノは在庫も満腹感がある状態で、小腸は動き始めたが大腸が昨年と比べ動きが鈍い状況である。</p>
	③輸入牛	<p>○平成28年10月の輸入通関実績は、輸入量合計で41.3千ト(前年比99.6%)であった。内訳は、チルドが17.5千ト(前年比92.3%、前月比91.3%)、フローズンは23.8千ト(前年比99.6%、前月比97.6%)であった。チルドビーフについては、豪州産が7.8千ト(前年比70.2%)と減少したが、米国産が8.8千ト(同123.9%)と大きく増加し、2ヶ月連続で豪州産を上回る数量となった。(独)農畜産業振興機構の今後のチルドビーフ輸入量予測について、出荷頭数減少により豪州産の減少が見込まれる一方で、米国産は生産量の回復に伴う増加を見込んでいる。</p> <p>○平成28年10月の冷凍輸入牛レバーは74.0ト(前年比90.3%)で前月比95.9%であった。国別では、米国産が65.5ト(前年比722.2%)、豪州産は8.5ト(同13.6%)、メキシコ産がなしとなった。昨年と比べ米国と豪州の量が逆転した。</p>
2.原皮	①牛原皮	<p>○平成28年10月の輸出実績は、25,475枚(前年比113.3%、前月比188.2%)で、前月・前年とも上回った。輸出平均価格は4,835円/枚(前年比-2,463円、前月比+17円)となった。国別実績は、韓国4,875枚(前年比101%)、タイ17,100枚(同160.7%)、香港2,300枚(同35.4%)、台湾1,200枚(同230.8%)。一方、ウェットブルーの輸入は、83.3千枚(前年比86.7%、前月比125.8%)、牛大判皮は42.7千枚(前年比76.8%、前月比94.3%)となった。</p> <p>○輸出動向は前年・前月に比較しプラスに転じ、なかでもタイ向けの数量が増加した。国内動向については国内発生量は減少しているものの、輸出向けの不振により依然姫路向け一極集中が続いており荷余り状態が深刻化している。輸出数量との減少もあるが、今年に入って価格も下がる一歩であり深刻な状況である。先行きが見えない状態である。</p>
	②豚原皮	<p>○平成28年10月の輸出合計は、1,157,140枚(前年比94.8%、前月比109.5%)と、前月より上回った。輸出価格は750円/枚で前月比+27円、前年比+163円であった。国別実績は、台湾271千枚(前年比69.1%)、タイ809千枚(同137.9%)、韓国28千枚(同42.0%)、香港11千枚(同20%)、フィリピンは38千枚(同227.2%)、ベトナム実績なしであった。</p> <p>○輸出動向については、この時期は通常輸出量は徐々に落ち込んでいくが、現時点でも輸出量は安定している。今後もヌバック需要等により現時点でも需要が見込める状況が継続している。円安傾向も輸出を後押ししているが、EUの景気低迷がマイナス要素である。</p>
3. レンダリング	①油脂等	<p>○11月渡しの国内産食用加工油脂向け価格は、豚脂が前月比同じだが、前年に比べ5円マイナスの88円(前年比94.6%)、牛脂は前月比・前年比とも同じの93円(同100.0%)。</p> <p>○10月マレーシア産パーム油相場は、9月末在庫が増加はしたが前年に比べ極めて低水準のため9月95円より下げたものの94円となった。(前月比98.9%、前年比108.8%)。しかし、10月以降は生産量回復予測により弱含みである。</p> <p>○10月の関東飼料用油脂は前月より5円安の70円/kgと前年比13円安で、工業用油脂も同様に5円安の47円/kgの前年比13円安。11月はもちあい。</p> <p>○10月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月より5円安の61円~64円/kg辺り。前年比13円安。</p>

1. 東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg

価格改定年月日	牛内臓	豚内臓
平成23年5月26日	34/枝kg	8/枝kg
平成24年7月6日	30/枝kg	8/枝kg
平成24年11月19日	30/枝kg	7/枝kg
平成26年6月9日	30/枝kg	9/枝kg
平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg
平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg

* 豚正貫物

2. 大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg

価格改定年月日	牛内臓	豚内臓
平成20年3月10日	50/枝kg	3/枝kg
平成20年5月1日	50/枝kg	5/枝kg
平成23年6月20日	40/枝kg	5/枝kg
平成24年7月13日	30/枝kg	5/枝kg
平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg
平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg

* H23.4.1から枝重500kg以上が510kg未満に改定

3. 東京市場原皮価格 単位:円/枚

価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮
平成23年7月1日	1,000/枚	110/枚
平成25年2月1日	1,000/枚	140/枚
平成25年6月3日	1,000/枚	160/枚
平成26年1月6日	2,000/枚	200/枚
平成27年4月1日	2,000/枚	170/枚
平成28年4月1日	2,000/枚	150/枚

* 交雑牛含む

4. 大阪市場原皮価格 単位:円/枚

価格改定年月日	牛原皮(和ヌキ)	豚原皮
平成23年2月21日	1,300円/枚	30/枚
平成23年7月11日	1,300円/枚	70/枚
平成25年2月8日	1,300円/枚	100/枚
平成25年6月10日	1,300円/枚	120/枚
平成26年1月6日	2,300円/枚	160/枚
平成27年4月13日	2,300円/枚	130/枚

5. 油脂価格/kg(食用向け)

価格改定年月日	牛脂	豚脂
平成26年8月1日	88	93
平成27年7月1日	91	93
平成27年8月1日	93	93
平成28年6月1日	93	88